

授業科目名	音楽学の方法	担当形態	講義		
		開講学期	秋学期		
担当教員	アルバレス・ホセ・サンティアゴ	単位	2	年次	2

### ＝授業のテーマ及び到達目標＝

この講義では、春学期の"音楽学の課題"を受けて、音楽を学として考察したり、調査したりする方法を学びます。様々な分析方法、社会との関わりとしての様式の捉え方、資料研究の在り方、フィールドワークの方法等について学びます。

最終的には、如何に音楽学的研究を行なうかの方法論を身に着けます。

### ＝履修の条件と学習の方法＝

真摯な態度で、音楽を学び享受できる学生諸君、感性、知性の両面から音楽を楽しみたい学生諸君の受講を求めます。よって、大学生が取るべき受講態度を、必ず実践することを求めます。

講義をするにあたり、高校卒業程度の世界史(特に文化史)の時代区分の知識を前提とします。ノートは、自分なりの方法で、しっかりとまとめ、復習も充分に行なうことを求めます。

### ＝授業の概要＝

音楽学的研究方法と、それに必要な様式観について学びます。主に西洋音楽の時代様式、資料研究、フィールドワークの実際についての概略を学びます。

### ＝授業計画＝

- 1回 ガイダンス：講義の目標や内容の確認及びアンケート実施
- 2回 楽曲分析と音楽分析(1)
- 3回 楽曲分析と音楽分析(2)
- 4回 様式観と精神構造 (1) — バロック以前 —
- 5回 様式観と精神構造 (2) — 古典派 —
- 6回 インターミッション — ハイドンの『鳥』の分析
- 7回 様式観と精神構造 (3) — ロマン派 —
- 8回 様式観と精神構造 (4) — 民族主義・標題楽・近代
- 9回 インターミッション — ラヴェルの『水の戯れ』の分析
- 10回 資料(又は史料)研究(1)
- 11回 資料(又は史料)研究(2)
- 12回 フィールドワーク
- 13回 予備
- 14回 まとめ
- 15回 テスト (1)
- 16回 テスト (2)

概ねの予定です。学生諸君の理解度により、進度に影響が出ることも多い講義です。

### ＝テキスト(必携)＝

必要に応じてプリントを配布します。

### ＝参考書・参考資料(必携)＝

必要に応じてプリントを配布します。

### **=成績評価の方法と評価の基準=**

評価は、周到な予習・復習に基づく能動的な授業への参加がなされているか否か、また、その結果としての習熟度がどうであったかで行ないます。つまり、テスト・レポートの成績及び平常点、出席状況を勘案して評価します。

テストは、二部構成で実施します。この2日間の試験を必ず受験してください。

### **=その他=**